



令和元年度

きのくにコミュニティスクール  
ヒント集

令和2年2月

きのくにコミュニティスクール推進協議会

## はじめに

きのくにコミュニティスクール推進協議会は、和歌山県が取り組んでいるきのくにコミュニティスクールを推進していくために組織された協議会です。本協議会では、学校教育関係者・社会教育関係者・福祉関係者等、さまざまな立場から、きのくにコミュニティスクールのこれまでの取組の点検や今後の方向性を考えるとともに推進のための支援を行っています。

今年度の本協議会においては、きのくにコミュニティスクールが形骸化することなく実効性のある取組としていくために4つの視点で協議を実施しました。

### 〈 4つの視点と協議会の意見 〉

#### ①小、中、高、特別支援学校の校種間連携について

- ・他校の学校運営協議会と合同会議を行うことで情報共有ができ、連携が進む。
- ・学校運営協議会に他校種の学校長等が入ることで、子供の発達段階における現状や課題を共有できる。

#### ②地域の企業、団体等との連携について

- ・学校として戦略的に学校運営協議会の委員を人選することで、連携が進む。
- ・企業、団体等との連携をスムーズにするために、学校の窓口（地域連携担当教員等）を一本化する。

#### ③学校を核とした地域の活性化について

- ・学校運営協議会と共育コミュニティ等（地域学校協働本部）との連携・協働により、地域貢献活動が充実する。
- ・学校が継続して地域に出向くことで、地域の魅力の再発見につながる。

#### ④地域住民等の参画促進について

- ・学校運営協議会から、地域住民等に対して広報紙等により情報発信することで、学校教育目標や様々な教育活動に対する理解を得ることができる。
- ・公民館や集会所で学校行事等を実施することにより、地域住民の協力が得られる。

今回、これら4つの視点をテーマに、各市町村や学校の事例を多数掲載した「きのくにコミュニティスクールヒント集」を作成しました。本協議会の意見や各事例を参考にいただき、それぞれの地域の特色や実情、課題に応じた取組を充実・発展していただければと思います。

# 目次

## ① 小、中、高、特別支援学校の校種間連携について

- 1、三世代ふれあい交流会でつながろう！ ～さらなる地域の教育力向上に向けて～  
印南町立切目中学校・・・1
- 2、幼小中と公民館が合同で協議会を設置し交流研修行事を開催  
～新庄地域の伝統とこれから～ 田辺市立新庄中学校・・・2
- 3、あいさつで交流 ～高校生が中学生の手本に～ 上富田町立上富田中学校・・・3
- 4、地域の中学校と連携した学校運営協議会の取り組み 県立新翔高等学校・・・4

## ② 地域の企業、団体等との連携について

- 1、学校と地域が一体となり子供を育む 和歌山市立河北中学校・・・5
- 2、ケーブルテレビも活用して ～すさみ町学校運営協議会の想いを発信～  
すさみ町立周参見中学校・・・6
- 3、クマノザクラを活かした古座川町観光協会との連携 古座川町立高池小学校・・・7
- 4、北山村のふるさと教育 ～未来の北山村をみんなで考える～  
北山村教育委員会・・・8
- 5、自分の在り方・生き方を考える“キャリアシミュレーション”開催  
県立箕島高等学校・・・9

## ③ 学校を核とした地域の活性化について

- 1、「花その笑顔運動」 ～花を媒体とした地域との交流～  
かつらぎ町立梁瀬小学校・・・10
- 2、共育コミュニティを基盤としたコミュニティ・スクール  
海南市立北野上小学校・・・11
- 3、入学式をしよう！ ～入学生0人をなんとかしたい～  
日高川町立山野小学校・・・12
- 4、高雄<sup>コミュニティスクール</sup>CS 2年目の挑戦、5つの公民館と連携していくために  
田辺市立高雄中学校・・・13

5、学校運営協議会と地域共育コミュニティとの連携

県立橋本高等学校・古佐田丘中学校・・・14

6、地域の魅力化を図るコミュニティ・スクール ～創設者から学ぶ～

県立耐久高等学校・・・15

**④ 地域住民等の参加促進について**

1、「異年齢力」を培う幼小連携の活動「昔遊び」を支える地域の力

～先輩風を吹かせ！びゅーびゅー！～ 和歌山市立雑賀崎小学校・・・16

2、地域とともにある学校を目指して

和歌山市立高松小学校・・・17

3、ボランティア意識向上と参加促進に向けて

和歌山市立西浜中学校・・・18

4、地域ぐるみで子供の成長を育む活動

紀の川市立上名手小学校・・・19

5、港町再発見「こんなところがあったんや！」 ～自慢と誇りを育てるふるさと学習～

有田市立港小学校・・・20

6、ホタルの里 長野 ～地域と共に、ふるさとを愛する子供を育てるために～

田辺市立長野小学校・・・21

7、ヤタガラス子ども未来プロジェクト ～ふるさとの未来を託せる子供の育成～

新宮市立神倉小学校・・・22

8、はじめての合同避難訓練！

県立きのかわ支援学校・・・23

**⑤ その他（教育課題の解決等の事例）**

1、ネット社会に生きる子供たちの健やかな成長のために

紀の川市立那賀中学校・・・24

2、「ふるさと講座」を通して築かれる生徒と地域の絆

湯浅町立湯浅中学校・・・25

3、日高川町コミュニティ・スクールのつどい

～学校と地域をつなぐコミュニティ・スクール～ 日高川町教育委員会・・・26

4、上中学力向上応援隊 ～その後～

上富田町立上富田中学校・・・27

5、自分の命を守りきる ～地域住民と共に～

串本町立出雲小学校・・・28

6、学校運営協議会を核としたチームづくり ～学校課題の解決をめざして～

県立紀伊コスモス支援学校・・・29

**○ 資料**

・きのくにコミュニティスクール推進に係る指標

・・・30

①小、中、高、特別支援学校の校種間連携について

## 三世代ふれあい交流会でつながろう！ ～さらなる地域の教育力向上に向けて～

### 取組のポイント

- ☆切目小学校と切目中学校の合同学校運営協議会としているため、校種間の連携がとりやすい。
- ☆地域のつながりが希薄化する中、地区の公民館事業を見直し、より多くのつながりを作ろうとしている。
- ☆参加者（子供・地域住民・保護者等）同士がタテ・ヨコ・ナナメの関係作りをしている。
- ☆公民館とPTAが行事の意義を再確認し、地域創生をめざしている。

### 取組の内容

#### 【三世代ふれあい交流会を見直すことになったきっかけ】

- ・今年度の学校運営協議会で熟議した中で、地域行事への無関心さや親同士、子供同士のつながりの希薄化等が、家庭、地域の教育力の低下につながるのではないかとということが、話題にのぼったことから、「地区の公民館事業の既存行事を見つめ直そう」という合意に至った。

#### 【三世代ふれあい交流会の内容等】

- ・交流会は、今年で、11回目の実施である。地域の子供の減少、参加住民・運営側住民の高齢化の進行等、交流会を取り巻く条件に変化が見られ、参加人数が伸び悩んでいた。学校運営協議会委員に、切目小・中学校長及び保護者代表が入っているので、両校が協力して子供たちと保護者に対して周知を行うことができ、多くの保護者や子供たちの参加が得られた。また、中学生が運営を行うことで、参加した小学生は、将来の姿をイメージするきっかけとなり、いい関係づくりができています。

#### <今年度のプログラム>

- ①園児の歌・ダンス、小学生の家族への思いを綴った作文発表、中学生による合唱披露（体育館）
- ②サッカーストラックアウト・おかし釣り・輪投げ・おもちゃ弓矢等のアトラクション（体育館）
- ③グランドゴルフ体験（運動場）
- ④わたがし・パンダだんごの提供（運動場）
- ⑤三世代ジャンケン大会（体育館）



### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 少子化等により年々参加者が減っているため、より多くの子供に参加を促すため、社会体育や他の行事との日程調整をする必要がある。
- 中学生は地域の課題解決を担う者として、交流会へ「参画」するために学校運営協議会の熟議に参加させていきたい。

### 問い合わせ先

印南町立切目中学校（Tel:0738-43-0304）

# 幼小中と公民館が合同で協議会を設置し交流研修行事を開催 ～新庄地域の伝統とこれから～

## 取組のポイント

- ☆新庄地域では、コミュニティ・スクールを立ち上げる際、幼稚園、小学校2校、中学校、そして公民館の合同協議会を組織したことにより、中学校区としての共通の課題を共有することができている。
- ☆文部科学省が提唱する学校運営協議会の理念と、田辺市教育委員会が従来から取り組んできた学社融合のシステムや共育コミュニティの取組を土台とし、「学社融合推進協議会」として組織することで、スムーズなスタートを切ることができている。

## 取組の内容

### 【会則の制定 課題に応じた3部会の設置】

- ・事前に県外の先進地を視察し、研修や普及を視野に入れて、「ふるさと新庄部会」「防災安全部会」「学力子育て部会」を設置。

### 【地域の理解を得るための広報の工夫】

- ・学社融合推進協議会を周知するためのパンフレットを作成。  
パンフレットには、各学校・園のスクールプラン（共通様式）を一覧で紹介している。

### 【課題や願いの把握のために】

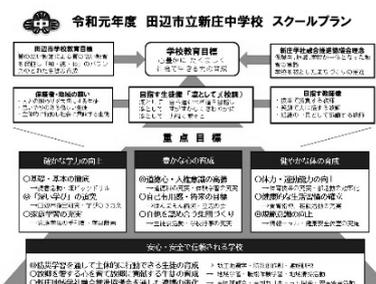
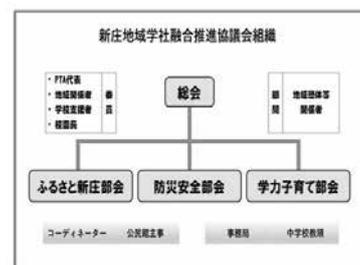
- ・「子どもの未来像アンケート」の実施（平成30年度）とその活用。  
幼稚園・小学校・中学校・地元の民間保育所・地域団体関係者及び地域住民にアンケートを依頼。  
本年度のスクールプランに、「保護者・地域の願い」として反映。

### 【推進協議会が主催となって】

- ・平成30年度「ふるさと学習講演会・フィールドワーク」、令和元年度「子育て講演会」を実施し研鑽を積んでいる。

### 【20年続く新庄合同研修会の開催】

- ・幼稚園・小学校・中学校・公民館の関係職員が一堂に会して、合同研修会を開催しており、現在も継続中。



## 取組の成果・課題（今後の展望）

- 該当する学校・園の関係者以外の方々でも、公開行事に参加していただけるようになった。
- 地元の子供を、地域をあげて育てていこうという気運の表れであると考える。
- 少子化が進む中、当協議会を通じて、地域の子供が地域の学校で学びたいと感じるような校種間連携を進めていきたい。
- 複数の学校・園が合同で協議会を行う場合、学校運営方針の審議や承認の点で深まりにかける傾向がある。今後は部会組織を見直すなどして、「学校経営戦略会議」の機能を強化していきたい。

## 問い合わせ先

田辺市立新庄中学校（Tel:0739-22-1643）

## あいさつで交流 ～高校生が中学生の手本に～

### 取組のポイント

- ☆上富田町のCSとしての柱の1つである、「あいさつ運動」を広げていくモデルとなっている。
- ☆上富田中学校と熊野高等学校の生徒があいさつを通して交流し、生徒間、学校間のつながりを深める。
- ☆コミュニケーションスキルを育成することで、生徒から地域へと「あいさつ運動」を広げていく。

### 取組の内容

#### 【上富田中学校、熊野高等学校 交流の経緯】

・地理的・歴史的に関係が深い上富田中学校と熊野高等学校は、町内1中学1高校の連携を深めようと平成18年度から交流が始まり、今年で13年目になる。当初はクラブ交流が主であったが、授業交流も行うようになり、現在に至っている。年に1回教員がお互いの学校を訪問し、授業参観や協議を行ってきた。

その後、小・中・高の授業交流へと発展し、公開授業や教育活動全般についても、学校運営協議会で協議を行っている。

#### 【クラブ交流からあいさつ交流へ】

- ・お互いの学校に共通するクラブがない場合もあり、全体の交流になりにくいという課題があった。
- ・上富田中学校では、近年、あいさつの声が小さくなり、率先してあいさつをする生徒が少なくなっていることが、学校運営協議会でも話題となった。そこで、宿泊研修などを通して、継続的にあいさつ運動の向上に取り組んでいる、熊野高等学校の生徒から学ぶ機会を持つことで、あいさつに対する意識を高めようと、あいさつ交流がスタートした。

#### 【交流の内容】

- ・校歌斉唱(熊野高等学校・上富田中学校)
- ・両校生徒会あいさつ
- ・宿泊研修動画視聴
- ・各教室に移動し、クラスごとに中学生が高校生から教わりながらあいさつの練習をする。
- ・あいさつをすることの意味やポイントの伝授・場面に応じたあいさつについて考える。



### 取組の成果・課題（今後の展望）

○中学生にとっては、高校生が堂々と大きな声であいさつをしている姿を目の当たりにし、身近なモデルから刺激を受ける機会となった。高校生にとっては、中学生のお手本になることで、あいさつの大切さを再認識するなど、双方にとって、社会性の向上の一助となった。

○「あいさつ運動」は、町内各校の学校運営協議会のテーマにもなっている。町内1中1高の両校の生徒が中心となり、町全体が大きな声であいさつが飛び交う、明るい町となるよう小学校も巻き込んだ取組に発展させていきたい。2月にも、中学生が熊野高等学校を訪問し、あいさつ交流に加え、「校歌」でも交流を行い、お互いの卒業式に備える予定である。

### 問い合わせ先

上富田町立上富田中学校 (Tel:0739-47-0053)

## 地域の中学校と連携した学校運営協議会の取り組み

### 取組のポイント

- ☆昨年度設置された学校運営協議会を非公式も含め5回開催した。
- ☆学校運営協議会の委員として、全て地元や新翔高校につながるの深い方を選んでいる。
- ☆近隣中学校と合同の学校運営協議会を開いている。

### 取組の内容

#### 【取組の経緯】

- ・本校は、平成19年度から県下4校目の総合学科高校として、幅広く「防災」「観光」「福祉」等特色ある科目を開設し、生徒の個性を生かした学習を行っている。しかし、学校運営協議会での協議の中で、外部への情報発信力が弱い、新翔高校の魅力を打ち出す更なる取組が必要という指摘をいただいた。そこで、広報活動の改善と行事内容の見直しを積極的に行った。

#### 【学校運営協議会での協議内容】

- ・第1回（5/29）

今後の新翔高校のあり方を議題として、地域の声の集約方法について話し合った。その結果、委員に地域の中学校長がいらっしゃることもあり、中学校と合同の学校運営協議会を開き、本校に対する要望・提言を出していただくことになった。

- ・第2回（7/16）

城南中学校との合同協議会を開催した。そこで、中学校と高校の教員がざっくばらんに話し合える機会をもてないか、社会に出て行く生徒につけたい力、中学校のうちにつけておくべき力を中学校側に伝えてほしい等の意見が出された。

この意見を受けて、城南中学校との中高連絡協議会(10/11)では、高校側からの一方的な説明だけではなく、意見交換の時間を設け、出席者全員に発言してもらう機会をもち、活発な意見交換ができた。

- ・第3回（10/30）

事前の打ち合わせ(9/4)で、もっと新翔高校を知ってもらいたい意味で他の中学校とも合同協議会をもつべきとの意見が出され、第3回は光洋中学校との合同協議会を開いた。そこで、「中学生が高校に対して望むものを把握した上でプレゼンテーションを行う」、「保護者へもっと実利をPRすべき」、「ヘアメイクを学べるなど専門学校のようなカリキュラムも特長になる」等、高校側からの目線だけでは知り得なかった斬新な意見をいただいた。



### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 中学校との合同協議会を開催して、お互いの考えを意見交換し、今までにない活発な交流ができた。このことをきっかけに、今後、中学校など地域との交流をどうすすめて行くか、また今後の新翔高校のあり方を検討しなければならない。
- 高校側からはしっかりPRできているつもりでも、地域の中学校の保護者、中学生にはまだまだPRしきれておらず、どうすればうまく伝わるのか有効な情報発信の方法を考えていきたい。

### 問い合わせ先

県立新翔高等学校（Tel:0735-31-7087）

## ②地域の企業、団体等との連携について



## 学校と地域が一体となり子供を育む

### 取組のポイント

- ☆学校運営協議会と河北地区子どもを育てる協議会（以下、育てる協議会）が連携し、コミュニティ・スクールを運営している。
- ☆学校運営協議会は、育てる協議会会長、校区内小学校長、育友会会長等で構成している。
- ☆校区内小学校（4校）及び中学校の早朝交通指導を行っている。
- ☆講演会を開き地域の課題（子育て、虐待等）について研修を行っている。
- ☆防災避難訓練等について地域で協力して活動を行うことができる。

### 取組の内容

#### 【河北地区子どもを育てる協議会】

- ・地域の子供たちの健全育成及び活性化を図る目的で設置されている。
- ・校区内幼稚園、小学校、中学校（学校、育友会）だけでなく、以下のメンバーが所属している。  
連合自治会長、社会福祉協議会、民生・児童委員会、保護司代表、交通指導員連絡協議会、更生保護女性会、警察少年補導員  
地域安全推進員会、人権委員会、婦人会、親子クラブ連絡協議会、市立少年センター、生活安全刑事課少年係、市教育委員会
- ・校区内園学校へ啓発旗や看板、その他学校の活動に必要と考えられることの支援を行っている。

#### 【河北地区子どもを育てる協議会の活動内容等】

- ・通学路及び校門交通指導等を小・中学校で行っている。
- ・講師を招聘し、子育て、人権等に関する講演を行っている。
- ・教育活動に必要な人的、物的（機関紙、看板、啓発旗等）支援を行っている。
- ・学校運営に関する助言、支援を行っている。

#### 【学校運営協議会と地域の関わり】

- ・学校運営協議会委員に育てる協議会会長が所属しており、共有した学校運営上の課題解決に向けて育てる協議会で検討し、学校運営協議会で方針を決めている。
- ・多くの団体と情報共有することで、地域の教育力の向上と子育てに対する支援ができる。
- ・地域が、教育に関心を持ち、学校と連携し子供たちの育成を図ることができる。
- ・育てる協議会による財政的支援により、より高度な教育活動、啓発活動を行うことができる。

#### 【幅広い地域住民の参加・参画に向けて】

- ・学校開放月間にかかわらず、学校参観を実施し、学校運営に助言を得ている。
- ・育てる協議会関係者等が、地域の子育て支援を行うことで、将来を担う子供たちの支援に多くの住民がかかわることができる。

### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 地域の教育に関する関心が高まった。
- 子育てに悩む母親を幼児期からサポートできる体制の基盤となりつつある。
- 学校運営に財政面・人的面で援助や支援をいただくことで、学校も含めた地域全体の教育活動の活性化が図れた。

問い合わせ先

和歌山市立河北中学校 (073-455-2114)

## ケーブルテレビも活用して ～すさみ町学校運営協議会の想いを発信～

### 取組のポイント

- ☆すさみ町では、全世帯でケーブルテレビを視聴することができ、町の行事などが放送されている。
- ☆小学校2校、中学校1校合同の学校運営協議会の共通の課題が、学校からの発信力を高めることであるため、今年度からケーブルテレビを大いに活用している。
- ☆学校行事の広報だけでなく、「すさみっ子応援隊（学校ボランティア）」の募集もテレビで行った。

### 取組の内容

#### 【3校合同のすさみ町学校運営協議会 熟議（話し合い）の方法】

- ・江住小学校、周参見小学校、周参見中学校の3校合同の学校運営協議会として今年度スタートした。
- ・前半に各校ごとにグループ協議を行い、後半に全体で各校の課題を共有している。

#### 【共通となった課題は】

- ・コミュニティ・スクールのスタートにあたって、「学校の様子をどのように地域に伝えるか」「学校の困りごとをどこまで分かってもらえるか」が3校合同の学校運営協議会において3校共通の課題となった。

#### 【地域に「あるもの」を活用して】

- ・小さな町であるが故、町のことを知り尽くした役場職員が保護者や関係者として委員に選出されている。
- ・委員の主体的な動きにより、学校には負担なく、学習発表会やPTA主催の講演会の様子などがケーブルテレビで放送され、反響が寄せられている。

#### 【さらなる発信力の広がりへ】

- ・実施した行事を発信するだけでなく、これからの学校の困りごとを助け、応援してくれる「すさみっ子応援隊」の募集も行った。（※「すさみっ子応援隊」は周参見小学校の学校ボランティア）
- ・早速、図書ボランティアなどの応募があり、活動がスタートしたところである。



### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 各校からの依頼ではなく、学校運営協議会として広報のスタイルを考えたことが、スムーズなテレビ放送へと繋がった。
- 協議会発足をきっかけに、新たな学校ボランティア「すさみっ子応援隊」が組織され、子供たちの学習の幅が広がることが期待される。
- 児童数の減少により、江住小学校は6年後に閉校する予定である。町内全世帯で視聴できるケーブルテレビ放送を使って、閉校した地域へも学校や子供の様子を伝え続けることは、学校と地域の距離感を遠くさせないための方法の1つであると考える。

### 問い合わせ先

すさみ町立周参見中学校（Tel:0739-55-2015）

## クマノザクラを活かした古座川町観光協会との連携

### 取組のポイント

- ☆平成30年度、103年ぶりに発見された新種のクマノザクラを「ふるさと学習」の柱にしている。
- ☆古座川町観光協会から依頼を受け植樹を行った。
- ☆学校運営協議会でクマノザクラの取組を報告し評価を得ている。

### 取組の内容

#### 【取組を始めるに至った経緯】

- ・平成30年度に、103年ぶりにクマノザクラの新種が発見された。このクマノザクラのタイプ標本木が高池小学校の校区に自生しているため、「ふるさと学習」を進めるうえで絶好の機会であると捉え、観光協会と連携しながら取り組んでいる。



#### 【取組の内容】

- ・平成30年度は、町の地域振興課から町内在住の樹木医を紹介してもらい、花の形、開花の時期、他のサクラとの違いなどを学ぶ機会を持った。
- ・クマノザクラの開花を見学したのち、地域の貴重な財産を大切にしようと呼びかけるため、高池小学校6年生がタイプ標本木の看板を卒業制作として取り組み、平成31年3月に看板を設置した。
- ・本年度に入り、古座川町観光協会からクマノザクラの植樹について提案を受けた。そこで、今年度から毎年、小学校3年生の時に種を植え、卒業時に植樹をするという計画を立てている。



#### 【学校運営協議会や地域との関わり】

- ・樹木医や町観光協会と関わりながら地域を知ることができた結果、学校内では学ぶことのできない学びにつなげることができた。児童たちからは、地域に対する課題意識をもって取り組む姿勢が見受けられた。
- ・取組内容を学校運営協議会に報告し、評価をいただきながら、今後も地域の団体等と連携した取組として発展させていく。

### 取組の成果・課題(今後の展望)

- 今年度、学校が町観光協会と連携・協力体制を築けたことは、今後の発展的な取組につながっていくことが期待できる。
- 町内の各学校運営協議会が合同で行う研修会で、クマノザクラの取組を学校間で共有し、町内全ての学校で取り組んでいけるよう進めていきたい。

### 問い合わせ先

古座川町立高池小学校 (0735-72-1556)

## 北山村のふるさと教育 ～未来の北山村をみんなで考える～

### 取組のポイント

- ☆村制130周年を記念し、子供たちが描く未来の北山村をパンフレットに掲載した。
- ☆地元青年会長が、小学校のふるさと学習の中で、村の歴史や文化について授業を実施している。

### 取組の内容

#### 【取組のきっかけ】

- ・今年が北山村村制130周年にあたる年であるということをきっかけに、「郷土愛を育むふるさと教育ができないか」と学校運営協議会で提案があり、協議を行った。130周年記念式典のためのパンフレットに、小学生たちが思い描く「将来の北山村」の絵を描いてもらうこととなった。

#### 【取組の内容】

- ・地元青年会長が、小学校全児童に村の歴史や文化について解説し、村ができた当時と今の村の様子、将来の人口ビジョンなどを比較しながら、「これからどんな村になったらうれしいか」を問いかける形で授業を行った。子供たちは、青年会長から聞いた村の歴史や文化を踏まえながら、未来の村をイメージした絵を作成し、村制130周年パンフレットに掲載した。

#### 【学校運営協議会や地域の関わり】

- ・「ふるさと教育」の授業を、学校運営協議会委員であり、日頃から村の祭りや行事で児童に接する機会のある青年会長や地域住民の方の協力を得て実施したことで、具体的な未来の村をイメージすることができ、のびのびと作品を作ることができた。また、子供たちは、地域の方と将来の村の様子を話し合い、大人に褒められながら作成したことで、自己肯定感や自尊感情を高めることができた。



### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 子供たちが村の未来に希望をもっていたり、村に対する愛着心が育ってきた。
- 世代を超えた多くの人と人とのつながりができてきた。
- 今後はより一層地域とのつながりを深め、村全体で子供たちを育みたい。

### 問い合わせ先

北山村教育委員会（Tel:0735-49-2331）

# 自分の在り方・生き方を考える“キャリアシミュレーション”開催

## 取組のポイント

- ☆学校運営協議会での熟議を踏まえ、ボランティア活動等の学校側から外へ出向く形の協働から、外から学校へ入って来てもらう仕掛けをしている。
- ☆地元企業との連携・協力により、生徒のキャリア意識やコミュニケーション能力が向上している。

## 取組の内容

### 【取組の経緯】

- ・箕島高校は、有田市に唯一在る県立高等学校として「積極的に地域社会に参画する意識・意欲の高い生徒を育てる」という教育目標を掲げ、「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」をめざし、これまでも活動を続けてきた。
- ・学校運営協議会において、地域との協働についての異なった視点からの取組を模索する中で、平成31年3月、有田市ロータリークラブの協力をいただき、目前に進路選択を控える就職希望の2年生を対象に「自分の在り方・生き方を考えるキャリアシミュレーション」と題した、地元企業側からの講演と会社説明会の開催が実現し、地域との協働を促す新たなステップを踏み出すことができた。



### 【「自分の在り方・生き方を考えるキャリアシミュレーション」の開催】

- ・第1部は、ロータリークラブ会長さんから「人生は素晴らしい！だから一歩を踏み出そう！」と題して、仕事上の失敗談を交えながら、失敗から学ぶ職業観について熱く語っていただいた。
- ・第2部として、体育館に設けられた各ブースで、身近にある有田市内の企業側から、熱のこもったプレゼンテーションが行われた。少人数のグループに分かれた生徒たちは、担当者の方に積極的に質問をぶつけ、自らの職業観や生き方について考える機会を与えていただき、コミュニケーション能力の伸長にも繋がった。
- ・参加協力をいただいた企業の方々からも、「生徒さんたちが熱心に説明に聞き入ってくれて、質問をもらった。大変良い取組だった。」との講評をいただいた。



## 取組の成果・課題(今後の展望)

- 前年度の取組を更に発展させ、生徒のキャリア意識を高める場となるよう仕掛けを考えている。
- 新たな取組として、学校運営協議会の委員の方々には、機械科・情報経営科の専門学科に於ける課題研究成果発表会を参観いただき、本校活動を踏まえた更なる協働を重ねていただくことを計画している。

## 問い合わせ先

県立箕島高等学校 (Tel:0737-83-2155)

### ③学校を核とした地域の活性化について

## 「花ぞの笑顔運動」～花を媒体とした地域との交流～

### 取組のポイント

☆昨年度の学校運営協議会では、学校の課題を地域ぐるみで解決するというを中心に行ってきた。今年度においては、さらに地域の課題解決に学校が関わっていく、新しい形のコミュニティ・スクールを提案・実践している。

### 取組の内容

#### 【「花ぞの笑顔運動」とは】

- ・平成30年10月より、花を媒体とした地域等との交流を中心に進めている取組である。児童に運動名を考えるように提案したところ、「花を届けることでみんなに笑顔が広がり、また、笑顔になるには笑顔であいさつをするなど他の方法もあるので、それらを全部あわせて花園に笑顔を届けたいので『花ぞの笑顔運動』にしたい。」との意見があり、この運動名になった。



シンボルマーク

#### 【「花ぞの笑顔運動」をはじめたきっかけ】

- ・当地域は個人や団体に花を育てている人が多く、花への関心が高い地域である。また、地域の学校への関心も高く、何かとお世話になることが多いが、一方的にお世話になるばかりではなく学校としても地域に貢献することで一層関係を深めたいと考え、取組を始めることとなった。

#### 【「花ぞの笑顔運動」の内容】

- ・花苗育成と地域等への花苗配布を行っている。1年あまりで3200株余の苗を配布した。
- ・学校長が地域の各種団体(現在6団体)に花苗を配布し、世話を依頼している。
- ・かつらぎ町社会福祉協議会と連携し、地域の高齢者との交流会(えがおとどけ隊)を実施し、プランターへの苗植えを協力しながら行っている。
- ・校内の花環境の整備を行っている。令和元年度、和歌山県花を愛する県民の集い主催の第23回和歌山県花いっぱいコンクール(学校の部)で、最優秀賞を受賞した。



#### 【学校運営協議会や地域の関わり】

- ・学校運営協議会において、この取組の目的や意図を共有し、ボランティアや指導者・サポーターの募集について協議した。また、学校運営協議会委員も意図に協賛し、花を育ててくれている。

### 取組の成果・課題(今後の展望)

- 花を通じて地域の方との交流が深まり、地域における学校の存在感がより大きくなっている。
- 学校の喫緊の課題である人口減少に伴う学校規模の縮小の対応策を、今後、学校運営協議会で議論していく下地ができたと捉えている。

### 問い合わせ先

かつらぎ町立梁瀬小学校 (Tel:0737-26-0304)

## 共育コミュニティを基盤としたコミュニティ・スクール

### 取組のポイント

- ☆「ななさと共育コミュニティ」の取組の実績を生かす。（「ななさと」とは、北野上地区のこと）
- ☆これまで培ってきた、地域と学校のつながりを大切に、お互いのために何ができるか熟議する。
- ☆ふるさと学習としての「ななさと学習」を体系化する。

### 取組の内容

#### 【ななさと共育コミュニティについて】

- ・本校がある北野上地区では、楽しく安心して暮らせる地域づくりを目的に、平成 24 年に「ななさとコミュニティ協議会」を発足した。この協議会は、公民館や連合自治会をはじめ、こども園や小中学校を含む約 20 の団体で構成されている。そして、この協議会の中に「共育コミュニティ」が位置づけられた。
- ・「ななさと共育コミュニティ」は、1 年生の昔の遊び、2 年生の校区学習、3 年生の世代間交流、4・5 年生の環境学習、5・6 年生の家庭科実習、全校マラソン記録会の見守りといった「学習支援」と「環境整備」や、親子ドッジボール大会、映画会、陶芸、草もち作りなどの「地域ふれあい活動」を行っている。北野上小学校だけではなく近隣のこども園や中学校への支援、中野上小学校、南野上小学校と合同で行っている通学合宿も主催している。
- ・登下校の見守り活動やあいさつ運動、運動会や 6 年生を送る会への参加等「地域ふれあい事業」などを通じて、地域住民が学校と積極的に関わり、つながりを深めてきている。



#### 【学校運営協議会が発足して】

- ・平成 30 年度に発足した学校運営協議会では、これまで培ってきた地域とのつながりを大切にしながら、「ななさとコミュニティ協議会」との連携を一層密にし、「地域とともにある学校」として取組を進めている。
- ・この 2 年間の学校運営協議会では、主に通学路の整備や地震が起きた場合の対応、地域と連携した行事の改善について協議を深めた。また、子供たちが自分の住んでいる地域の豊かな自然、文化・歴史を知り、人の温かさに触れることで、ふるさとに誇りや愛着を持ち、ふるさとを大切にすることを目標としたふるさと学習「ななさと学習」の計画立案について継続的に検討している。

### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 「ななさと共育コミュニティ」を基盤にした、「地域とともにある学校」になっていると言える。
- 学校、保護者、地域のつながりをさらに深めるため、それぞれができることを考えている。
- 今後は、これまでの取組を見直し、新事業を加えて「ななさと学習」として体系化したい。

### 問い合わせ先

海南市立北野上小学校 (073—488—0053)

## 入学式をしよう！ ～入学生0人をなんとかしたい～

### 取組のポイント

- ☆「令和2年度入学生0人」という課題解決に向けて、学校運営協議会が動いた。
- ☆ゆめ倶楽部 21・町役場・県庁等と山野地区が連携し、移住者を募った。
- ☆県外からの移住者を迎えるため、委員らが迅速に動いたことが功を奏した。

### 取組の内容

#### 【令和2年度の入学式について話題になったきっかけ】

- ・平成30年度の学校運営協議会で、委員から令和2年度の入学式について「入学生がない」旨の発言があり、「なんとかしよう！」という合意に至った。  
(※山野小学校は、全校児童が21名の学校である。)



#### 【学校運営協議会等の内容】

- 平成31年2月・・・令和2年度の入学生がないことが話題になる。
- 令和元年5月・・・地区には空き家登録候補が数軒あり、それらを空き家登録するための熟議をする。また、移住者への情報発信の効果的な方法について、ゆめ倶楽部21の山下氏に相談するため、次回までに「PRできること」を各自考えて来ることとする。
- 7月・・・「PRできること」を各自付箋に書き出し、熟議をする。  
ゆめ倶楽部21の山下氏を交えて、今後の方向性について助言を頂く。  
町のウェブページに掲載する内容について熟議する。
- 8月・・・町のウェブページを見ていた県外の移住希望世帯から町に連絡があり、山野地区の空き家の見学を案内する。(山野地区の空き家に移住することが決定する。)
- 11月・・・移住世帯(父母、子5人の7人)が転入し、子供たちはそれぞれの学校(小6・小2)・園(年長・年中・年少)に通い始める。
- 11月・・・学校運営協議会でこれまでの流れを共有し、今後の取組について熟議する。

### 取組の成果・課題(今後の展望)

- 喫緊の課題解決に向けて、学校運営協議会が様々な関係機関と迅速に連携することで成果を得られた。
- 転入家庭の受け入れ体制をより充実させ、不慣れな土地での生活を支援していきたい。
- 10年先を見据えてその他の空き家も徐々に整備を進め、さらなる移住者の受け入れを促進していきたい。

### 問い合わせ先

日高川町立山野小学校 (Tel:0738-53-0217)

## 高雄 CS 2年目の挑戦、5つの公民館と連携していくために

### 取組のポイント

- ☆今の高雄の子供たちのことを話し、課題を共有しましょう。
- ☆協議会としてできることをできる範囲で始めましょう。
- ☆子供を中心に据えて、学校・家庭・地域が繋がりましょう。(防災で、文化で)

### 取組の内容

#### 【今の高雄の子供たちのことを話し、課題を共有する】

- ・ 学校長が「高雄 CS にやってほしいこと・望むこと」を学校運営協議会委員にまず提示。
- ・ そのうえで、「ゆっくり、じっくり」と話し合うことを意識。  
その結果・・・

年2回では話し合いが足りない。協議会が年6回（2か月に1度）に。

委員である5つの公民館長に加え、公民館主事もオブザーバーとして協議会に参加。

学校の全職員と協議会委員の合同夏季研修を実施し、公民館単位で話し合いをもった。

学校評価用のアンケート項目の検討を行った。



学校職員との合同研修会

#### 【協議会としてできることをできる範囲で始める】

- ・ 子供たちが地域の中で活躍する場をつくる取組  
→ 高雄中学生徒が、公民館活動にボランティアとして参加。  
(夏休みの小学生向け体験教室、ふれあい文化祭など)
- ・ 学校図書館の利用を促進し、読書活動を活性化させる取組  
→ 図書館ボランティアがスタート。週2回、図書館に座るだけでも OK。
- ・ 不安なく高校へ進学させる取組  
→ 地域在住の元高校の先生方に依頼し、高校の授業を体験させてもらう。



元高校の先生による授業

#### 【子供を中心に据えて、学校・家庭・地域が繋がる】

- ・ 夏休みの登校日に、3年生が地域の方々と、防災スクールを実施  
→ 「防災クロスロードゲーム」でお互いに真剣な話し合いができた。
- ・ 中学校の文化発表会に公民館も参画  
→ 校区内5つの公民館による、サークル作品の展示を行い、来場者が増加した。



地域防災スクール

### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 学校運営協議会委員が顔を合わせる機会が増えたことで、課題が共有でき、新しい試みにつながった。
- 振り返りを大切にしながら、学校運営に対する意見や提言もいただいきたい。
- 既存の取組を CS の視点で見直すことで、より主体的にかかわる人たちを増やしたい。
- 各学年の取組なども、CS の活動とすることで「持続可能な取組」とさせたい。

### 問い合わせ先

田辺市立高雄中学校 (Tel:0739-22-5315)

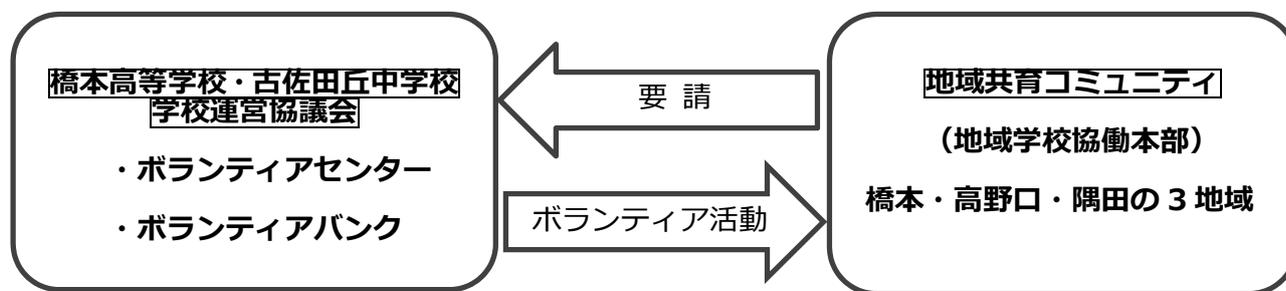
## 学校運営協議会と地域共育コミュニティとの連携

### 取組のポイント

- ☆橋本高等学校・古佐田丘中学校の学校運営協議会と地域共育コミュニティが連携を図り、生徒の地域ボランティア活動や課題解決学習を充実させることでその学びを社会に発信する行動力を培っている。
- ☆橋本高等学校の生徒会にボランティアセンターを開設したり、生徒がボランティアバンクに登録したりすることで、地域貢献活動を行う機会を充実させている。
- ☆橋本高等学校2年生は夏季休業中に全員が各種団体のボランティア活動に参加している。

### 取組の内容

#### 【橋本高等学校・古佐田丘中学校 学校運営協議会と地域共育コミュニティとの連携】



- ・本校学校運営協議会委員8名のうち5名が3地域の地域共育コミュニティの本部員やコーディネーターとして所属している。そのため、本校生徒の地域貢献活動の機会の拡充に向けた連携が非常に取りやすいという利点がある。
- ・具体的な取組例として、高野口小学校サマースクールの一環で実施している「科学教室」に高校科学部員が、「木工教室」にはボランティアセンターが募集した有志の高校生が、ボランティアで参加した。また、隅田地域のあやの台小学校で夏季休業中の学習支援に、ボランティアセンターが募集した有志の高校生・中学生が参加した。



### 取組の成果・課題(今後の展望)

- 本校学校運営協議会委員と地域共育コミュニティの本部員、コーディネーターと兼ねられている方が多いので連携を密にできたことがよかった。
- 課題としては、長期休業中以外の日程で小学生対象のボランティア活動を行うことは難しいことがわかった。

### 問い合わせ先

県立橋本高等学校・古佐田丘中学校 (Tel:0736-32-0049)

## 地域の魅力化を図るコミュニティ・スクール ～創設者から学ぶ～

### 取組のポイント

- ☆進取の気性に富む本校創設者の濱口梧陵に学び、地域の魅力を再発見し、魅力化を進めることで学校改革に取り組み、地域とともに元気になるコミュニティ・スクールをめざしている。
- ☆地域で高校生が活躍する場を設定したり、地域の関係機関・団体等との連携・協働体制を構築している。

### 取組の内容

#### 【取組の経緯】

- ・学校運営協議会委員

地域の有識者、大学教授、企業経営者、学校・社会教育関係者、保護者、学校長

- ・第1フェーズ（平成30年～令和元年）

「これまでの学校改革の取組を整理し、地域に開かれた学校をめざす」

学校運営協議会の意見：“耐久ならではの活動を工夫して欲しい。地域で活躍する高校生の姿を見せて欲しい。”

- 1 文化祭に地域の小学生、中学生を招待（定着化）  
平成30年：湯浅町立湯浅小学校、湯浅町立湯浅中学校  
令和元年：湯浅町立湯浅小学校、広川町立耐久中学校
- 2 生徒による地元中学校（母校）訪問の継続と充実
- 3 地域で活躍する先輩を招いての講座や生徒討論会を実施し、地域を支える人材育成の礎づくり
- 4 町内小学校での読み語りや補習教室でのボランティア等、地域でのボランティア活動の充実

- ・第2フェーズ（令和2年～）

「創設者に学び地域の魅力化を図り、地域とともに元気になる学校をめざす」

学校運営協議会の意見：“地域が魅力的になれば学校も良くなる。進取の気性に富み、様々な分野で活躍した創設者濱口梧陵を大切にしながら、学校の在り方を探るべきだ。”

- 1 令和2年10月に濱口梧陵生誕200年事業を予定  
梧陵翁の生き方からこれからの社会を生き抜く術を学ぶ「パネルディスカッション」等を計画
- 2 生徒が地域での聴き取り調査を基に教材を作成し、地域への理解を深めながら、地域全体に魅力を発信
- 3 地域の商工会や町役場地方創生部局との協働体制を計画

#### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 本校は、「地域とともに歩み、地域に貢献する人材」の育成をめざしている。地域の魅力を再発見するため、地域の素材を活用したカリキュラムを開発するとともに、コミュニティ・スクールを軸にして、効果的な地域との連携・協働について考えたい。
- 学校運営協議会での「地域が魅力的になれば学校も良くなる。創設者の精神が生きた学校であってほしい。」との意見を大切にして、今後のコミュニティ・スクールを展開したい。

#### 問い合わせ先

県立耐久高等学校（Tel:0737-62-4148）

#### ④地域住民等の参加促進について

## 「異年齢力」を培う幼小連携の活動「昔遊び」を支える地域の力 ～先輩風を吹かせ！びゅーびゅー！～

### 取組のポイント

- ☆地域が抱える人口減、少子高齢化の課題に、小学校、幼稚園が地域の「ひと、もの、こと」を活用し、地域の活性化を図る一助とする。
- ☆幼小連携・接続の取組を地域が支える。異年齢集団のよさを最大限に活かす「学び合い」の取組。上級生が先輩風を吹かせ、下級生はそれに憧れる。(昔懐かしガキ大将とその仲間…)
- ☆学校運営協議会で、連携して取り組む小学校、幼稚園の教育活動の願いや思いを理解していただき、その取組に相応しい地域団体に取り次いでくれていることで、取組の充実を図ることができている。

### 取組の内容

#### 【「学び合い」を取り入れた、自主的・主体的に学習する学校づくりの取組】

- ・和歌山市で一番児童数の少ない学校。これまで『学び合い』の取組を通し、主体的に学ぶ児童育成を行っている。
- ・より多様な発想、考え方に出会うために、学びの成果を幼稚園児に平易な内容にして伝える。
- ・小学校、幼稚園それぞれのめあての達成を考慮し、実施してきた幼小連携の取組。

例) 年長児が草団子をお裾分け⇒小1児が習いたての平仮名でお礼状⇒手紙を貰った年長児、今度は自分が書きたくて自ら平仮名を調べて年中児に手紙を渡した。小1児、国語「くちばし」の学習後にクイズを作って年長児と交流。年長児は図鑑で鳥を調べ、自ら学びだした。このように、予想以上に子供たちの間で、どんどん学びや遊びが深まるのが見て取れた。



小1児がまず昔遊びに親しむ

#### 【昔遊び教室にひと味加えて「先輩風を吹かせる」異年齢力】

- ・まず小1児が「昔遊び教室」で遊び、お気に入りの遊びの紹介文を作る。
- ・幼稚園児の「昔遊び教室」で小1児がおすすめの昔遊びを紹介。
- ・小1児が先生になって幼稚園児に遊び方を教えながら一緒に遊ぶ。
- ・ボランティアの方は子供たちの遊びを見守り、玩具の修理等の支援を行う。

#### 【学校運営協議会や地域の関わり】

- ・自治会など、地域の団体の会長等が学校運営協議会委員として参加。学校からの依頼に応じ地域団体を紹介、又は直接取り次いでくれている。
- ・地域発信の行事に学校・園が最優先で誘ってもらっている。
- ・ボランティア団体との打合せに学校運営協議会委員が関わることで、学校、園のねらいを十分に理解し、支援に入ってもらえる。
- ・学校だよりを地域向けに発行し、これらの活動を紹介している。



小1児が幼稚園児に昔遊びの説明と実演

### 取組の成果・課題（今後の展望）

- もともと小学校に関心の高い地域であり、支援を依頼できる団体が多い。学校運営協議会が、三つの自治会からのそれぞれ得意分野での支援の申し出や、支援団体の割当てをしてくれる。
- ボランティアの方々、幼馴染であることが多く、談笑されている姿を子供たちに見せてくれている。子供たちは、その大人の姿を見て、大人への憧れや人と関わる楽しさを感じることができている。

### 問い合わせ先

和歌山市立雑賀崎小学校 (Tel:073-444-0048)

## 地域とともにある学校をめざして

### 取組のポイント

- ☆地域の各種団体が子供の見守りをはじめ様々な面でサポートしてくれている。
- ☆「子供は地域の宝」と地域の方からの言葉をもとに、学校運営協議会を開催しながら地域とともにある学校づくりに取り組んでいる。

### 取組の内容

#### 【学校運営協議会の関わり】

- ・学校運営協議会委員が、積極的に下記取組に参加及び協力者の呼びかけをしてくれるおかげで多くの地域の方の協力を得ることができている。
- さらに、本年度の第2回学校運営協議会において、各取組について熟議を行い、今後の方針を検討しながら充実を図っていく。

#### 【子供見守り活動】

- ・登下校、地域探検等で交通指導員の方々、交通安全母の会の方々、地域安全推進委員会等の高松地区の各種団体の方々に、交代で子供の見守り活動を行ってもらっている。



#### 【納涼の夕べ（夏祭り）】

- ・PTA 主催の夏祭りにも見守り活動を行ってもらっている。
- ・また、地域の方が冷やしぜんざいの店を夏祭りに出店してくれた。

#### 【公民館フェスティバル】

- ・学校開放月間と連動して、高松地区の公民館活動で完成した高松地区の方の作品を本校の教室に展示した。オープニングセレモニーでは、多くの来賓の方を迎え子供たちの暗唱や歌声なども披露し盛大に開催することができた。子供たちにとって地域の方の力作を鑑賞できる機会は、大変貴重である。

#### 【図書館の活用や読み聞かせ】

- ・現役の保護者の方や PTA を卒業された方等に、本の展示やディスプレイの模様替えなど子供目線に立って活動してもらっている。また、読み聞かせボランティアの方にも定期的に活動してもらっている。



#### 【ありがとう集会の開催】

- ・日頃の感謝の気持ちを伝えるために児童会主催の「ありがとう集会」を開催した。地域の方や多くの保護者の方が参観してくれた。

### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 学校運営協議会委員に自治会長が入っているので地域の各種団体の方に呼びかけてくれる。そのおかげで学校活動のサポートを円滑に行っていただいている。
- 学校運営協議会で協議したことを今後につなげていきたい。

### 問い合わせ先

和歌山市立高松小学校 (Tel:073-425-0351)

## ボランティア意識向上と参加促進に向けて

### 取組のポイント

- ☆ボランティア・スタンプカードを作成し、生徒・保護者・地域の方のボランティア意識の向上及び参加促進を目指している。
- ☆浜友会（同窓会）と連携しながら進めることで、地域のことを詳しく知った方々に協力してもらうことができている。

### 取組の内容

#### 【取組のきっかけ】

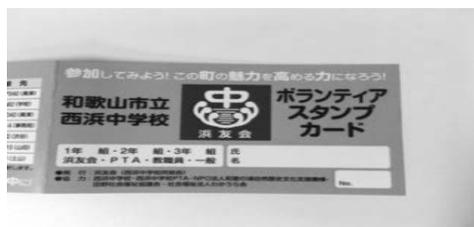
- ・西浜中学校学校運営協議会に提出される学校評価アンケートで、例年「家庭学習」と「ボランティア活動」の意識向上が課題となっている。これを受け本校同窓会「浜友会」と学校が連携しながら、懸念される南海地震や高齢者福祉の力になれる人材を育てるため、ボランティア・スタンプカードを作成し、ボランティア意識向上と参加促進を図ることにした。

#### 【本年度の取組】

- ・本校では、10年前から「水軒堤防松植樹活動」に参加し、地域の方々とともに水軒浜を昔の姿に戻す活動を行ってきた。また、植樹計画終了後、水軒堤防公園サポートクラブとともに、保全活動にも取り組んできた。2学期始業式に、ボランティア活動の意義と参加方法について、学校運営協議会委員である浜友会会長から全校生徒に向けて説明が行われた。10月末のPTA主催の校内親子清掃活動において、ボランティア・スタンプカードが初めて使われることになった。

#### 【学校と浜友会との連携を通して】

- ・ボランティア・スタンプカードを活用しながら、一人でも多くの子供や地域の方にボランティアに対する意識づけができれば良いと考える。



### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 中学校、高校を卒業してこの校区を離れることがあったとしても、景観保全をはじめ、数々の活動をしているNPO法人の存在を認識していることで、参加への垣根が低くなると思われる。
- 学校では、先生と生徒といった縦の関係性からの提案では、やらなくちゃならないと生徒が思いがちであるが、同窓会が斜めから進めてくれる分、生徒の自発性が促されやすくなっている。
- 今後は、「1人でも2人でも活動に参加してくれれば」というスタンスで活動を継続していきたい。

### 問い合わせ先

和歌山市立西浜中学校（Tel: 073-444-0482）

## 地域ぐるみで子供の成長を育む活動

### 取組のポイント

- ☆上名手地区には以前から「上名手小学校をよくする会」が結成されており、各大字区長、各町内会長、育童会企画委員、学校代表、青年団代表、公民館主事、婦人会長、父母子どもクラブ会長、上名手ソフトボールリーグ代表、民生児童委員地区代表、歴代育童会会長が委員となり、地域ぐるみで協力して子供たちの健やかな成長を見守る体制が構築されている。
- ☆学校運営協議会の会長を共育コミュニティのコーディネーターである上名手公民館長としていることで学校と地域の連携がスムーズにとれている。

### 取組の内容

#### 【きっかけ】

- ・学校運営協議会で、従来から行ってきた子供の見守り活動の中で、特に「低学年児童の放課後見守りの必要性」が課題として挙げられた。そこで、どのような内容で進めるべきかについて熟議を行った。

#### 【活動内容】

- ・学校運営協議会委員や地域のボランティアの方に協力委員(約 20 名)として、下記の見守りをしていただいている。(協力委員の中には、「上名手小学校をよくする会」のメンバーも入っている。)

#### 〈新たな見守り活動〉

下校付添(1年)、昔の遊び指導(1・2年)、家庭学習支援

#### 〈従来の見守り活動〉

昔のくらし指導・補助(3年)、校区学習付添・指導(3年)、そろばん、指導・補助(3・4年)、家庭科授業補助(5・6年)、水泳授業見守り、マラソン大会見守り、総合学習指導・補助

#### 【見守り活動年間計画について】

- ・上名手公民館長がコーディネーターを勤め、毎年4月当初に協力委員全員が集まり、年間の分担計画を立てていただいている。

#### 【協力委員との取り決め】

- ・協力委員の活動時に、万が一児童に不慮の事故が発生しても、その責任は問われないようにしている。



低学年児童見守りの様子



家庭科学習補助の様子

### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 地域の様子をよく知っている公民館館長が共育コミュニティのコーディネーターと学校運営協議会会長を兼務することで、スムーズに計画を立て、活動することができている。
- 毎年4月当初に協力委員全員が集まり、年間の分担計画を立てることにより、地域の行事と学校の行事の関わりが持て、活動がしやすくなっている。

### 問い合わせ先

紀の川市立上名手小学校 (Tel:0736-75-3065)

## 港町再発見「こんなところがあったんや！」 ～自慢と誇りを育てるふるさと学習～

### 取組のポイント

- ☆計画から実施まで、すべて学校運営協議会主体で行っている。
- ☆地域（育成会）・保護者（育友会）も取組の趣旨に賛同し、協力してくれている。
- ☆子供たちが楽しみながら地域のことを学ぶことができ、地域の方々とつながる機会となっている。

### 取組の内容

#### 【はじめたきっかけ】

- ・港小学校の子供たちのために学校運営協議会としてできることはないかを探る中で、「港町に住んでいながら、港町のことを知らない子供が多い」「港小学校に勤務している先生方も知らないのではないか」という課題が出された。そこで、「港町のことをもっと知ってもらって、港町を愛する子を育てよう」「自分たちの住んでいる港町に自慢と誇りが持てるようにしよう」という目標を共有し、取り組むことを確認した。

#### 【実施における工夫】

- ・毎月1回学校運営協議会を開き、目的を確認した上で計画を行った。  
（目的）①子供たちが楽しみながら、今まで気がついていない港町の素晴らしいところを認識できるようにする。  
②縦割り班編制で行い、リーダー（高学年）としての責任感や調整能力を育成する。  
③地域の方々とのつながりを広げる。
- ・「港町」の魅力を発信する『5つ星プロジェクト』（有田市産業振興課）と連携し、『港ディスカバリーポイントラリー』を計画した。
- ・夏休みに、家庭学習・自主学習でお家の方々と共に散策する課題を出して協力をお願いした。（保護者の人と一緒に知ってもらう活動）
- ・事前、事後の学習も含めて学校のカリキュラムにふるさと学習として位置づけた。



#### 【実施当日の様子】

- ・全校86名中56名参加。（地域・保護者からも約40名が参加）
- ・子供たちが勉強してきた港町の事を有田市内のより多くの方々にPRする発表会として、有田市文化福祉センターで港小学校全児童による『港町発見発表会』を行った。当日は、200名を超える地域住民・保護者が集い、大盛況であった。多くの人に学んだことを発表したことで、子供たちにとっても自信につながる発表会となった。

### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 学校のカリキュラム（総合的な学習の時間、生活科）の中に、ふるさと学習「港町再発見」という項目を作り、全学年が計画的に取り組むことができるようになった。
- 港町再発見に係る学習を行う上で、必要に応じて学校運営協議会委員や地域の方々ゲストティーチャーとして授業に参画していただいたことで、世代を超えた多くの人と人とのつながりができてきた。
- 毎年継続していく上で、目的を常に確認・共有しながら、実施内容について検討していく必要がある。

### 問い合わせ先

有田市立港小学校（Tel:0737-83-4880）

## ホタルの里 長野 ～地域と共に、ふるさとを愛する子どもを育てるために～

### 取組のポイント

- ☆学社融合推進協議会（学校運営協議会）・公民館と学校が連携してホタル学習を計画している。
- ☆「長野郷明会」に一方的にお世話になるだけでなく、学校からも関わりをもっていく。
- ☆ホタルを守り育てることの大変さやその過程にある地域の思いに触れることで、地域のすばらしさを知る。

### 取組の内容

#### 【ホタル学習を始めたきっかけ】

- ・昭和 63 年に、ホタルが飛び交うかつてのようなふるさと長野を取り戻そうと「長野郷明会」が結成され、ほたる祭り等のイベントを計画・実施するなど、地域の活性化に精力的に取り組まれてきた。そのような中、長野小学校では、学社融合の一つとして、地域の活動や願いに触れようとホタル学習に取り組むようになった。今では、学社融合推進協議会で取組内容を話し合い、ふるさと学習の柱となっている。

#### 【ホタル学習の内容(平成 31 年度・令和元年度)】

- ・長野郷明会の方にホタルについて教えていただいたり、ほたる観賞館「長野ひかりの館」の掃除を行ったりしている。本年度は、校区で開催されるほたる祭りで、児童によるほたるについての発表やダンスを披露した。
- ・田口川ホタル遊々倶楽部（有田川町）から、倶楽部の今までの歩みや活動への熱い思い等を聞かせていただいた。
- ・ホタルの幼虫の餌となるカワニナの餌（カワニナボール）作りやホタルの飼育（卵から幼虫）を行っている。



#### 【学社融合推進協議会が組織されて】

- ・学社融合推進協議会の会長が公民館の館長も兼任しており、住民側のコーディネーターとして調整を図ってくれている。また、町内会長が副会長なので、地域住民への声掛けがスムーズである。
- ・本校単独の学社融合推進協議会なので、学校の意向を汲んでもらいやすく調整がしやすい。
- ・夏休みの学校整備作業では、少ない保護者では樹木の剪定まで手が回らないので、地域の方々にも声を掛けていただいた。結果、多くの地域の方々の協力を得られたことに加え、学校に関わっていただく良い機会にもなった。

### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 児童が、地域のことを大切に考え誇りに思う心を醸成する機会となった。
- 同じような取組をしている学校や地域の方々と繋がりをもつことで、学習の幅が広がった。
- マンネリ化によって興味・関心が低くならないよう工夫していきたい。
- これらのことを学社融合推進協議会の共通理解としながら、活動を継続させていきたい。

### 問い合わせ先

田辺市立長野小学校（Tel:0739-34-0034）

# ヤタガラス子ども未来プロジェクト ～ふるさとの未来を託せる子供の育成～

## 取組のポイント

- ☆「ヤタガラス子ども未来プロジェクト」は、ふるさとの文化や歴史を地域の方と共に学び、ふるさとへの愛着、誇りを育てる取り組みである。
- ☆学校運営協議会委員とサポーターが、プロジェクトの企画調整、準備、運営を行っている。
- ☆子供たちは、「事前学習」「フィールドワーク」「発表会」を通して学びを深めている。

## 取組の内容

### 【取組を始めるに至った経緯】

- ・神倉小学校は、学校運営協議会で熟議を重ねた結果、「地域行事の担い手が減っている」「若い人が進学や就職で都会に出て行き、町の賑わいもなくなっている」「子供の自己肯定感が全国に比べて低い」などの課題が出された。そこで、地域の担い手となる子供たちに、「この地域で育ってよかったと思ってもらいたい」「ふるさとへの愛着や誇りをもってもらいたい」との思いから、地域の歴史や文化、学校の立地を生かして、「ヤタガラス子ども未来プロジェクト」として、次の二点を理念に取り組むこととした。
  - ①「ふるさとの未来を託せる子供の育成（地域とともにある学校づくり）」
  - ②「コミュニケーション能力の育成（これからの社会の中で生き抜く力をつける）」

### 【ふるさと学習を通して】

- ・校区には歴史的・文化的な遺産が数多くあり、その立地を生かした学びを、学校運営協議会委員とプロジェクトに関わる「サポーター」で担任の先生と連携をとりながら、計画、準備、運営を行っている。「子供の笑顔は私たちの喜び」との思いで子供たちの豊かな学びを支えている。



### 【これまでの取組】

- 平成 30 年度「お燈祭りプロジェクト」（全学年）
- 令和 元 年度「仲之町商店街を知ろう」（2 年生）
  - 「ふるさとの伝説を知ろう」（4 年生）
  - 「世界遺産の地で学ぶ・しんぐうの祭りを知ろう」（1 年生）
  - 「ふるさとの文化を知ろう」（5 年生）
  - 「ふるさとの祭りを知ろう・お燈祭り」（6 年生）
  - 「ふるさとの祭りを知ろう・わらじ・松明作り」（3 年生）



## 取組の成果・課題（今後の展望）

- 子供たちにとって、「ふるさと学習」の内容が充実することにとどまらず、発表を通して地域の方に子供たちの声を届けることで地域の活性化にもつながりつつある。
- 委員・サポーターなど地域の方と子供たちとの関係も深まり、子供の課題や成長を感じてもらっている。

## 問い合わせ先

新宮市立神倉小学校（Tel:0735-22-8454）

## はじめての合同避難訓練！

### 取組のポイント

- ☆学校運営協議会委員の意見をもとに協議を行い、学校と地域の合同避難訓練の開催が実現した。
- ☆合同避難訓練実施後には、学校運営協議会で避難訓練についての成果・課題や今後の方針について話し合った。

### 取組の内容

#### 【取組の経緯】

- ・本校地域の自治会長かつ自主防災会会長で、現在学校運営協議会の委員をお願いしている方に、以前、本校の避難訓練の様子を見学していただいた。その時の様子を見て、本校の体育館は地震発生時の拠点避難場所に指定されており、本当に災害が起こった場合、体育館に避難することになるので、事前に本校児童生徒と地域の方々が顔を合わせ、交流を深めておくことが大切ではないか、という意見をいただいた。
- ・前年度から合同避難訓練の具体的な実施方法について検討を進め、今年度4月と6月に、自主防災会の方3名と本校教頭、保体部長で会議を持ち実施方法や実施時期の原案を作成した。
- ・7月の学校運営協議会で、合同避難訓練の詳細を説明した。様々な意見をいただき、実施方法、実施日を決定した。



#### 【合同避難訓練の様子】



- ・実施日は、本校が5年前から実施している災害時引渡訓練日である10月26日（土）に実施することにした。
- ・実施方法においては、児童生徒への配慮から、いきなり同時に体育館に避難するのではなく、まず地域の方々に体育館へ避難していただき、その後、本校の避難訓練を行うこととした。先に避難してきていた地域の方々には、本校の避難訓練の様子を見ていただくようにした。
- ・合流後、橋本市危機管理室長の防災に関する講話を体育館で一緒に受けた。地域の方が100名近く体育館に来られていて、初めての「顔合わせ」だったが、生徒たちは、いつもと同様の様子で挨拶をした後、落ち着いて講話を聞くことができた。

### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 12月の学校運営協議会で今回の合同避難訓練の報告を行い、今後の方針へのアドバイスをいただいた。
- 今回は初めての開催ということで、避難訓練の開始時間をずらしたり、小学部の児童は体育館への避難を実施しなかったりしたが、今後、継続して行っていく中で、より有効的な合同避難訓練を考えるとともに、お互いの理解を深めていきたい。

### 問い合わせ先

県立きのかわ支援学校（Tel: 0736-42-0415）

## ⑤その他（教育課題の解決等の事例）

# ネット社会に生きる子供たちの健やかな成長のために

## 取組のポイント

- ☆平成 30 年度学校運営協議会で、子供たちの携帯端末の使い方の問題点について熟議をし、PTA が主体となって、携帯・スマホの使い方について話し合った。
- ☆「携帯電話に関する那賀中学校 PTA からの提言」原案作成委員会（以下スマホ委員会）を発足させ、アンケートで子供たちの実態を把握し、「携帯電話に関する那賀中学校 PTA からの提言」を行った。
- ☆令和元年度夏休み前にはリーフレットを作成し、各家庭に配布した。また、令和元年度第 2 回学校運営協議会に生徒・教員の代表が参加し、リーフレットの効果について話し合った。

## 取組の内容

### 【きっかけ】

- ・学校運営協議会会長の「携帯・スマホは親が子供に与えている。携帯・スマホにまつわるトラブルに責任を持つのは親である。」の言葉をきっかけに、取り組みが始まった。

### 【スマホ委員会の発足】

- ・PTA 会長・副会長・各地区役員代表・校長・教頭をメンバーとしてスマホ委員会を発足させた。現状把握のためにアンケートを実施した。その結果 75%の子供が自分専用の携帯端末を所持し、電話以外にネット動画・ネットゲームや SNS 等に利用していた。また、25%の生徒が、1日4時間以上携帯端末を使用していることがわかった。

そこで、保護者が中心となり携帯端末の利用についての提言を行い、学校と協力しながら子供たちの健やかな成長を見守ることにした。

### 【リーフレットの作成】

- ・時と場をわきまえ、節度をもった使い方が出来る子供をめざし、以下の提言を行った。

#### ①使う時間のルール

保護者は、子供の携帯端末の使用を**午後 9 時まで**としましょう。

#### ②見まもる

保護者は、子供がどのような携帯端末の使い方をしているか常に**関心**をもちましょう。

#### ③大人が手本に

保護者が、子供の**見本**となる携帯端末の使い方をしましょう。



## 取組の成果・課題（今後の展望）

- 学校運営協議会に保護者代表（スマホ委員会委員）・教員代表・生徒会が参加し、携帯電話の功罪について議論することができた。
- リーフレットの効果について保護者にアンケートを取り、家庭の実態を把握することで、より良い取り組みにしていくことが今後の課題である。



## 問い合わせ先

紀の川市立那賀中学校（Tel:0736-75-2078）

## 「ふるさと講座」を通して築かれる生徒と地域の絆

### 取組のポイント

- ☆地域の方々に来校いただき、生徒と共に楽しく活動することを通して、生徒が「地域のことを学んで楽しかった」「色々な地域の方と話ができてよかった」等、多くの経験を積み重ねることで、地域への愛着を育てるとともに、将来の地域を支える人材づくり、地域を育てる人材づくりにつながっていく。
- ☆「ふるさと講座」は本校生徒にとって、学ぶだけでなく、一緒に活動する地域の方々や地域全体に還元できるものも少なくなく、それが地域の創生（活性化）にもつながっていく。

### 取組の内容

#### 【ふるさと講座を始めたきっかけ】

- ・コミュニティ・スクールを導入するにあたって、まず地域の方々に中学校に来てもらおう、今の湯浅中学校、今の生徒をきちんと知ってもらおうと考えた。
- ・新学習指導要領の理念「社会に開かれた教育課程」、和歌山県や湯浅町が進めている「ふるさと教育の推進」の具現化となるようにねらいと内容等を考え、「ふるさと講座」を始めた。

#### 【学校運営協議会との関わり】

- ・学校、生徒のことをよく知る、前年度の「ふるさと講座」の講師を中心に、学校運営協議会委員を依頼した。
- ・学校運営協議会で、「ふるさと講座」の実施にあたり、前年度の反省や生徒の意見を踏まえ、生徒につけたい力や講座の内容、持ち方などについて協議することで、講座の幅が広がり、今年度の活動の充実につながった。



#### 【ふるさと講座の内容等】

- ・1学期の総合的な学習の時間でふるさとについて学習し、2学期からは生徒が自分で受けたい「ふるさと講座」を選択し、参加する（人数調整有）。
- ・月曜日の放課後をクラブ休養日とし、地域の方々を講師とした「ふるさと講座」を開催する。

#### 【幅広い地域住民の参加・参画に向けて】

- ・「ふるさと講座」も2年目となり、学校運営協議会や講座の講師、地域の方々から、新たな講座の情報をもらったり、新たに講師や協力者を紹介してもらったり、土曜日や祝日にも「ふるさと講座」を開催するなど、講座や活動の幅が広がり、地域住民の参加・参画が増えた。

NO.	講座名	人数
1	湯浅の歴史・文化の語り部育成講座	10
2	英語活動を楽しもう	19
3	ふるさとの食&料理	28
4	食べて、触って描こう	22
5	写真で楽しもう	31
6	ふるさとの自然（地質・化石）	31
7	湯浅の歴史を知ろう	28
8	生け花を楽しもう	21
9	湯浅の魅力 再発見 ～歴史を動かす・活かす～	21
10	湯浅を紹介する情報誌を作ろう！	29
11	読み聞かせ講座 ～読書活動を楽しもう～	18
12	ふるさと検定にチャレンジしよう	23
13	絵手紙を楽しもう～素直に感じたことを描いてみよう～	21

[今年度のふるさと講座一覧]

### 取組の成果・課題（今後の展望）

- これまでも生徒の母校愛は強かったが、この取組を通して、ふるさとを愛する気持ちや想いが一層育ってきている。また、地域や地域の方を大切にしようとする気持ちが育つと共に、本校の課題であった自己肯定感が高まってきていることが、全国学力・学習状況調査の質問紙の結果等からもうかがえる。
- 当事者意識を持って運営してくれる講師が増えつつあり、講座の活性化につながっている。各講座の講師の横の連携を強めながら、一層の講座の充実に努め、講師の喜び、地域の喜び、さらには地域の創生（活性化）につながるものへと育てていきたい。
- 今後も地域・保護者とのつながりを強めるために、学校運営協議会を通して「広報活動」と「当事者意識の高揚」に努める。

問い合わせ先

湯浅町立湯浅中学校（Tel:0737-63-5531）

## 日高川町コミュニティ・スクールのつどい ～学校と地域をつなぐコミュニティ・スクール～

### 取組のポイント

- ☆町内の各学校運営協議会から、代表者が一堂に会し交流する。
- ☆町内外の事例を共有し、各地域の取組に生かす。
- ☆地域への情報発信としてのねらいもある。

### 取組の内容

#### 【日高川町コミュニティ・スクールのつどいをはじめたきっかけ】

- ・平成 29 年度、美山・丹生地区における学校運営協議会設置推進委員会が発足し、次年度のコミュニティ・スクール導入に向け、1年間かけて議論を重ねてきた。その中で、取組を始める方向性をそろえるため、CS マイスターである今村隆信氏を招聘し、町内の全ての学校教育・社会教育関係者等を対象に研修会を開催した。



#### 【日高川町コミュニティ・スクールのつどいの内容等】

- ・平成 30 年度、町内 14 校中 8 校に学校運営協議会制度が導入されたことから、取組について町内で情報交換をする場を設けた。

- (1) 実践発表（和佐小学校・川原河小学校）
- (2) トークセッション

登壇者：白山 義章 氏（福岡県春日市立春日西小学校 元学校運営協議会長）

岡本 真美（和佐小学校長）・小川 吉信（川原河小学校長）

コーディネーター：井戸 悠貴 氏（日高教育支援事務所 社会教育主事）

- ・登壇者だけではなく、より多くの地域住民の方の発言を促すように配慮した。
- ・各地区の取組の様子が分かる写真をスクリーンに投影し、登壇者以外の関係者にも取組と実施に至る「ストーリー」を語っていただいたことで、より効果的な情報交換の場となった。

### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 平成 29 年度に制度理解のための研修会を実施したことで、町内の情報共有を図れた。
- 各地区の取組・課題・要望等を、町内の学校運営協議会委員らと共有することができた。
- 各地区で、CS 通信を全戸配布して情報発信してきた。今後は、既存の取組や行事等を見直し、より高い当事者意識の醸成に努めていきたい。
- 過疎化・少子高齢化が著しい地域においても、持続可能な地域の仕組み作りを模索していきたい。

### 問い合わせ先

日高川町教育委員会（Tel:0738-22-8816）

## 上中学力向上応援隊 ～その後～

### 取組のポイント

- ☆高校入試に向けて意識の向上を図る。
- ☆学力アップのために自学自習の実践をさせる。
- ☆家庭学習時間増加のための動機付けをする。
- ☆以上のことを達成させるため、学習支援ボランティアを募り、学校運営協議会委員が一丸となり、教育力の向上を図る。

### 取組の内容

#### 【上中学力向上応援隊結成のきっかけ】

- ・前年度、全国学力・学習状況調査の結果、家庭での学習に弱さがある実態が浮き彫りになった。そこで、進路実現に向けて学年全体で意識を高め、家庭学習時間を充実させることにより学力アップを図るきっかけにしようと3年生に補充学習を始めた。学校運営協議会の協力を得て、教員と共に監督・指導にあたるボランティアを募り、「上中学力向上応援隊」として週1回活動を行った。本年度も昨年度同様の取組を行っている。

#### 【補充学習の内容等】

- ・参加対象 3年生（全員参加を原則とする） ・原則月曜日の7時間目に実施。
- ・自分の教室で自学自習を基本とする。 ・特別支援学級は担任が補充学習を行う。
- ・希望する学校・学科に進学できる学力の定着や学習習慣を身につけることを目標とする。

#### 【上中学力向上応援隊の関わり】

- ・上中学力向上応援隊には、自学自習を行う3年生の監督・指導をお願いする。
- ・教科指導ではなく、学年集団での学び・家庭学習の仕方を指導してもらう。
- ・現在9名の登録。

#### 【昨年度からの改善点】

- ・毎回反省会を実施し、出た意見をまとめ、次回の補充学習前に確認をしている。また、教職員にも共有し、日頃の指導に生かしている。
- ・黒板に大型タイマーを掲示し、時間を意識しながら学習する環境を整えた。タイマーは昨年度の卒業生からの記念品である。
- ・校内研修の際には、1・2年生の自習教室でも学力向上応援隊に監督・指導をしてもらった。教員は校内研修に集中することができ、成果を生かし、授業の質の向上へとつながっている。



### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 一人で学習するとしんどいことでも、みんなでやっているとがんばれる、「TEAM 上中」で難局を乗り越える事に意義がある、という意識が取組に関わるすべての人に根付いてきている。
- 50分間静かに集中して自習する経験があまりなかった生徒にとっては、貴重な機会になっている。
- 保護者の関心も高く、見学者は前年度を上回っている。教室に入って参観する保護者も増えた。
- 取組には個人差があり、家庭学習に移行しづらい生徒の情報共有やフォローが必要。協議会でもメンバーを確保し、保護者のボランティアも募って広めていくことも考えている。

### 問い合わせ先

上富田町立上富田中学校（Tel:0739-47-0053）

## 自分の命を守りきる ～地域住民と共に～

### 取組のポイント

- ☆防災学習は「学校運営協議会委員」「地域の住民」が一緒に考え協働する活動となっている。
- ☆学校運営協議会が広報紙を作成し、地域の回覧板に入れている。
- ☆地域の方々が児童、学校教職員に声かけをし、つながりを深め、「地域とともにある学校」をめざしている。

### 取組の内容

#### 【防災学習をはじめたきっかけ】

- ・出雲小学校区は、三つの地区があり、そのうち、二つの地区が海岸沿いにあるため、地震が起こった際に津波が押し寄せる可能性が非常に高い。協議会の中で、「津波が来ることを日頃から意識して、地域と学校が共同で避難訓練をしようじゃないか」という声があり、学校運営協議会で熟議を繰り返し、地域みんなで防災・減災の体験学習を始めた。



#### 【防災学習の内容等】

- ・地震や津波の体験談を聴いたり、役場、消防署、警察の担当者を講師に招き、最新の防災・減災知識を得たりしている。
- ・避難ルートの確認や避難所運営の方法を学んでいる。
- ・児童、教職員、地域住民が力を合わせながら海沿いの集会所から5分までどこまで避難できるのかチャレンジをしている。



#### 【学校運営協議会や地域の関わり】

- ・学校運営協議会委員に区長や公民館長が入っており、多くの地域住民に連絡をしてくれるため、学習会には、多くの地域住民の参加を得ることができている。
- ・多くの地域住民が協力してくれるので、児童が様々な世代と交流できている。

#### 【幅広い地域住民の参加・参画に向けて】

- ・学校運営協議会の協議の中で、児童や地域住民の意見も取り入れ、学習内容を決めている。
- ・継続した活動になるように、学校と地域住民とのコミュニケーションを大事にしていく。

### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 学校と地域の情報共有ができ、学校に対する保護者や地域の理解が深まった。
- 何を学ぶか、どのように学ぶかの明確化が必要である。
- 学校・家庭・地域において共通したビジョンの明確化が必要である。
- 地域全体で子供を育てていく交流をどのように推進できるかが課題である。

### 問い合わせ先

串本町立出雲小学校 （0735-62-0186）

## 学校運営協議会を核としたチーム学校づくり～学校課題の解決をめざして～

### 取組のポイント

- ☆学校運営協議会においては、それぞれの委員の専門性を生かし集中的に協議を行い、効果的に学校との協働が推進されるよう、4つの部会を設置している。
- ☆委員の任命に当たっては、学校の目標の達成や課題の解決をめざす上での明確な役割期待をもって、教育委員会に意見を述べている。

### 取組の内容

#### 【取組の経緯】

- ・近年、学校が抱える課題は複雑かつ多岐にわたっており、学校だけで解決することが難しくなっている。そのため、本校では、保護者、地域、関係機関が効果的に連携・協働を図り、教育活動を推進していくため、学校運営協議会を核とした協働のための組織づくりの取組を進めている。

#### 【推進のための4つの部会】

##### ①研究推進支援部会

大学教授や教育関係有識者の委員を中心に、若手教員の指導力の向上、児童生徒の実態把握や授業改善などに係る学校の取組に支援を行っている。

- ・授業改善研究協議
- ・トラウマチェックリスト研修会
- ・事例検討会

##### ②キャリア教育支援部会

企業、労働関係の委員を中心に、職場開拓、職業教育やキャリア教育の推進に係る学校の取組に支援を行っている。

- ・職場定着をめざす事業所懇談会
- ・校内技能検定
- ・職場見学

##### ③学校安全部会

医療関係者や臨床心理士の委員を中心に、学校安全の推進、安心して登校できる環境整備等に係る学校の取組に支援を行っている。

- ・医療的ケア検討委員会
- ・配慮を要する児童生徒に係る検討委員会

##### ④地域連携部会

地域の学校や自治会関係者、保護者代表の委員を中心に、地域や保護者と連携した学校の取組に支援を行っている。

- ・交流及び共同学習
- ・夏祭り
- ・オープンカフェ
- ・いきいき交流教室
- ・支援機器展



### 取組の成果・課題（今後の展望）

- 各専門部会からの支援は、学校運営や教育活動になくってはならないものに浸透してきている。特に、医療的ケアや不登校の問題などについては、より高い専門性によるアドバイスが得られ、安全安心な学校づくりの大きな担保となっている。
- 今後、各専門部会を核として協力者やサポーターを組織化し、協働推進のための組織の充実を図っていく必要がある。また、各専門部会が既存の校内組織と効果的に連携が図られるよう、新しい仕組みづくりが必要である。さらに、実際の協働に際しての経費、旅費や謝金等の確保も重要である。

### 問い合わせ先

県立紀伊コスモス支援学校 (Tel:073-461-6500)

## ○資料

「きのくにコミュニティスクール推進に係る指標」

## きのくにコミュニティスクール推進に係る指標

平成31年3月作成 きのくにコミュニティスクール推進協議会

項目		学校(学校運営協議会)	地域(共育コミュニティ等)	重点的に取り組みたいこと
学校運営協議会の機能	課題・目標・ビジョンの共有	(学校運営協議会や共育ミニ集会等における協議や熟議を通じて、)現状や課題を把握し整理している。育てたい子供像や目指す学校像等の目標やビジョンを共有している。具体的な手立てについて考えている。		
	学校運営の基本方針の承認	委員が校長の説明をもとに当事者意識を持って意見を述べている。	/	
	学校運営についての意見	保護者や地域住民等の意見を反映し、運営への必要な支援等に関して協議している。		
	教職員の任用に関する意見	学校運営協議会規則に定める事項について、学校運営の基本方針を踏まえた意見を述べる機会を設けている。		
	委員の構成	学校や地域の実情に応じて、様々な考え方を学校運営に反映させる委員が入っている。		学校運営協議会の委員に、共育コミュニティ等の関係者が入っている。
連携体制	学校と地域の連携体制	学校運営協議会の協議結果をもとに学校と地域が連携して取り組むため地域連携担当教員が位置づけられ、機能している。	共育コミュニティ等の関係者が、地域と学校との連絡調整や活動の企画・調整を行っている。	
	校種間の連携	地域内の他の学校運営協議会と連携している。	地域内の学校と連携できる体制となっている。	
活動	地域学校協働活動	目標やビジョンの達成に向けて考えた具体的な手立てについて、地域と学校が一体となって、役割分担しながら協働して取り組んでいる。		
	学校と地域の双方向の関係づくり	伝統行事の継承等、地域課題の解決に向けて、学校・子供たちが貢献している。	学校支援活動に、幅広い地域住民等が参加・参画している。	
	地域の核としての学校	学校が地域の中心的な存在となり、地域の課題解決に取り組む体制が整っている。	学校が社会的なつながりを得られる場となり、地域のよりどころとなっている。	
	地域づくりの担い手の育成	活動を通じて、子供たちのふるさとへの愛着や誇りを持つ心を育てている。	活動を通じて、そこに関わる大人や地域の絆が深まっている。	
情報提供	学校運営協議会の協議結果の情報提供	協議結果について、学校便りやインターネットを通じた発信、共育ミニ集会等における報告など、様々な方法で地域住民等に情報提供している。		
	(独自の項目)			
	(独自の項目)			

※共育ミニ集会・・・ 学校等を会場に、地域や保護者が気軽に参加でき、「地域の子供をどう育てるか」を共に考え、話し合う場

# 「きのくにコミュニティスクール推進に係る指標」の見方・使い方について

この指標には、各学校や地域においてきのくにコミュニティスクールを推進するにあたって、その目指す方向に必要なと考えられる取組の内容を整理しています。

学校運営協議会委員や教職員等のきのくにコミュニティスクールの関係者にご覧いただき、この指標の内容をもとに、現在の取組の状況や今後の取組に必要なこと等を確認し、取組の充実・改善につなげるために活用していただきたいと思います。

## きのくにコミュニティスクール推進に係る指標

平成31年3月作成 きのくにコミュニティスクール推進協議会

項目	学校(学校運営協議会)	地域(共育コミュニティ等)	重点的に取り組みたいこと
<b>学校運営協議会の機能</b> 課題・目標・ビジョンの共有 学校運営の基本方針の承認 学校運営についての意見 教職員の任用に関する意見 委員の構成	(学校運営協議会や共育ミニ集会等における協議や熟議を通じて、)現状や課題を把握し整理している。 学校運営協議会や共育ミニ集会等における協議や熟議を通じて、現状や課題を把握し整理している。		各項目・内容に沿って、学校や地域で重点をおいて取り組みたいこと等があれば記入します。  (取組の例) ・学力 ・体力 ・不登校 ・地域の防災対策 ・子供の安全確保 ・部活動の運営 ・教職員の多忙化解消 ・校則 (制服、スマホ使用…) ・地域の行事 など
<b>連携体制</b> 学校と地域の連携体制 校種間の連携	学校運営協議会の協議結果をもとに学校と地域が連携して取り組むため地域連携担当教員が位置づけられ、機能している。	共育コミュニティ等の関係者が、地域と学校との連結調整や活動の企画・調整を行っている。	
<b>活動</b> 地域学校協働活動 学校と地域の双方向の関係づくり 地域の核としての学校 地域づくりの担い手の育成	目標やビジョンの達成に向けて考えた具体的な手立てについて、地域と学校が一体となって、役割分担しながら協働して取り組んでいる。	伝統行事の継承等、地域課題の解決に向けて、学校・子供たちが貢献している。 学校が地域の中心的な存在となり、地域の課題解決に取り組む体制が整っている。 活動を通して、子供たちのふるさとへの愛着や誇りを持つ心を育てている。	学校支援活動に、幅広い地域住民等が参加・参画している。 学校が社会的なつながりを得られる場となり、地域のよりどころとなっている。 活動を通して、そこに関わる大人や地域の絆が深まっている。
<b>情報提供</b> 学校運営協議会の協議結果の情報提供	協議結果について、学校便りやインターネットを通じた発信、共育ミニ集会等における報告など、様々な方法で地域住民等に情報提供している。		
(独自の項目)			
(独自の項目)			

きのくにコミュニティスクールの目指す方向に必要な項目を示しています。

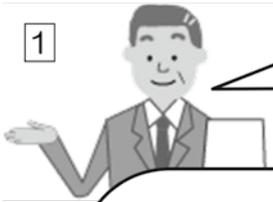
各項目に対して、「学校(学校運営協議会)」と「地域(共育コミュニティ等)」のそれぞれに取り組んで欲しい内容を記載しています。

学校や地域で独自に設定したい項目・内容があれば記入します。

※共育ミニ集会・・・ 学校等を会場に、地域や保護者が気軽に参加でき、「地域の子供をどう育てるか」を共に考え、話し合う場

## Q&A

1



Q. いつ、どの場面でこの指標を活用すればいいですか。

A. 主に、学校運営協議会での活用を考えています。年度当初に委員同士で指標の内容を確認し合うことで、共通理解を図ることができます。

例えば、「学校運営の基本方針の承認」という項目を見ると、協議会として基本方針を承認する際には、各委員は当事者意識を持って「いいですね」「わかりました、一緒にやってみましょう」「家庭・地域でもこんなことができそう」といった意見や思い等を述べるのが大切である、ということがわかります。

年度途中や年度末の学校運営協議会でも再確認をして、成果や課題をもとに取組の充実・改善に活かしましょう。

また、学校運営協議会で独自に設定したい項目や重点的に取り組みたいことがあれば記入する欄も設けていますので、必要に応じて活用してください。



2



Q. 「協働」とはどういうことなの。

A. 「協働」とは、同じ目的・目標に向かって、対等の立場で共に働くことです。保護者や地域住民等が計画段階から参画し、現状や課題、目標・ビジョンの共有ができたうえで、目標に向けた取組を進めてはじめて「協働」といえます。

現状や課題、目標・ビジョンについて、多様な関係者が当事者意識を持って協議し、共有する場が学校運営協議会や熟議です。

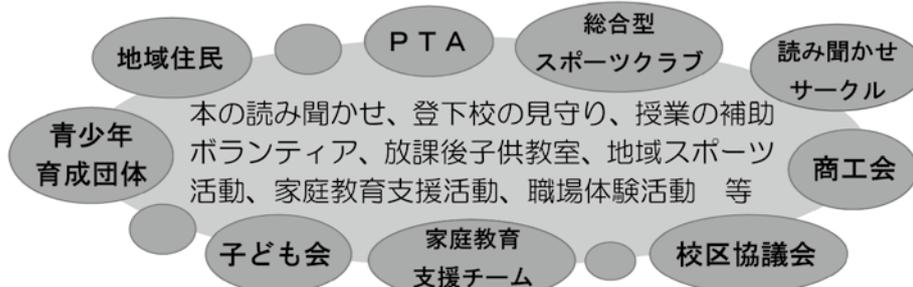


3



Q. 「共育コミュニティ等」って何ですか。

A. 「共育コミュニティ等」は、地域住民や組織・団体等による学校や地域での子供の豊かな育ちや学びを支える仕組みです。



学校運営協議会と共育コミュニティ等の両者が共に両輪となって、普段からコミュニケーションや情報共有を図るなど円滑に連携・協働することが、社会総掛かりでの教育の実現につながります。



4



Q. きのくにコミュニティスクールのいろいろな取組を知りたいです。

A. 和歌山県教育委員会のホームページに、「きのくにコミュニティスクールヒント集」や研修会の情報などをたくさん掲載しています。参考にしていただき、それぞれの特色や実情、課題に応じた取組をさらに発展させてください。

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/500000/index.html>



「きのくにコミュニティスクールヒント集」

目 次

はじめに

第Ⅰ部 導入・効果・推進

【市町村による推進体制づくり】 きのくにコミュニティスクールを導入し、推進していくための市町村の取組の紹介

- 1. 有田市の地域とともにある学校づくり  
～CS推進員と有田市コミュニティ・スクール連絡協議会の取組～・・・ 1
- 2. 学校運営協議会委員による合同研修会の取組・・・・・・ 2
- 3. 学校運営協議会推進員による学校巡回の取組・・・・・・ 3
- 4. コミュニティ・スクール推進協議会の活動・・・・・・ 4
- 5. コミュニティ・スクール推進への教育委員会の関わり・・・ 5

【具体的取組事例】 きのくにコミュニティスクールを推進するための学校運営協議会を中心とした取組の紹介

- 1. レジメとホワイトボードでマネジメント～宮原小学校の場合～・・・ 6
- 2. 管理職が引っ張るCSから全職員が役割を担うCSへ・・・・・・ 7
- 3. 部会組織で機動的に動く学校運営協議会・・・・・・ 8
- 4. 共育座談会「子育て、本音でトーク！」  
～地域ぐるみで子供を見守り・育てるために～・・・・・・ 9
- 5. 気軽に共育ミニ集会～よりよいコミュニティ・スクールへ～・・・ 10
- 6. 学校運営協議会による通学路の安全確保のための取組・・・・・・ 11
- 7. 学校・地域の「元気」を生み出すコミュニティ・スクール・・・・・・ 12
- 8. 上中学力向上応援隊（2018）  
～学習支援ボランティアによる補充学習への取組～・・・・・・ 13

第Ⅱ部 小中連携・一貫教育 校種間等で連携している取組の紹介

- 1. 幼保・小中自治体が連携した学校運営協議会の取組・・・・・・ 14
- 2. 中・高連携による生徒・教職員の交流  
～貴志川中学校・貴志川高等学校の交流から～・・・・・・ 15
- 3. 地域と共にある学校をめざして  
～和歌山市立加太幼稚園・加太小学校・加太中学校の連携を深めて～・・・ 16
- 4. 広域的に展開するコミュニティ・スクール  
～学習活動と地域や地元企業等を連携させた取組～・・・・・・ 17

詳しくは、きのくにコミュニティスクール

検索



## 和歌山県教育委員会

総務課・生涯学習課・県立学校教育課・義務教育課

〒640-8585 和歌山市小松原通一丁目1番地

TEL 073-441-3721